

「生きる力・美の力」展

宮武 弘 (福島県立美術館学芸員)

福島県立美術館外観



このたびの震災では、県内の美術館も多くの被害を受けました。福島の県立美術館でも、幸い負傷者こそ出ませんでした。施設の損壊により臨時休館を余儀なくされたほか、当初の予算が執行できなくなっただけに、予定していた展覧会を中止しなければなりません。他館においても概ね事情は同じだったといえます。

しかし、このような状況だからこそ、震災に負けない姿勢を内外に示し、復興に向けて立ち上がる福島県民の力になる事業が必要なのではないか。そんな思いから生まれたのが、9月10日～10月16日まで県立美術館で開催された「がんばろう福島 生きる力・美の力展」でした。郡山市立美術館をはじめ、いわき市立美術館、喜多方市美術館、CCGA現代グラフィックアートセンター、諸橋近代美術館、そして県立美術館を含む計6館が、所蔵するコレクションを持ち寄ってひとつの展覧会をつくるという、初めての試みです。展覧会開催が決まったのがオープンのわずか3か月前という、平素ではとても考えられないようなスケジュールで、各館スタッフの皆様に

は大変なご迷惑をおかけすることになってしまいました。結果的にそれぞれの美術館を代表するような約100点の名品、優品をお借りできたのは嬉しい誤算でした。

展示構成として心がけたのは、各美術館のコレクションの特色をわかりやすく紹介すること。郡山市立美術館からはイギリス美術と郡山ゆかりの美術という二つの系統からのご出品をお願いし、前者からはゲインズボロらの肖像画やターナーの版画など、そして後者では鎌田正蔵の洋画、安藤重春の日本画など、計20点



による構成となりました。会期中には各美術館の学芸員をお招きしてのギャラリートークも開催。郡山市立美術館の回では中山恵理学芸員に講師を務めていただき好評を得ました。32日間の入場者数は2600名あまり。お客様からの反響は数字以上に大きく、そして温かいものでした。会期中のアンケートから、幾つかご紹介しましょう。

「福島にも素晴らしい作品があるという事にあらためて感動しました」(50代女性/伊達市)

「ぜひ県外の方々にも見てもらい

たい展覧会です」(40代女性/いわき市)

「被害の大きかった地域への移動展覧会などは可能なのでしょうか？交通手段のない困っている人が見る機会があればと思います」(30代男性/相馬市)

3・11からはや10か月。震災被害と原発事故によって、福島県は現在もなお厳しい状況にあります。今回の展覧会がわずかなりとも、心に安らぎをもたらす復興に向けた活力を育む機会となったなら、望外の喜びです。



上：郡山市立美術館学芸員によるギャラリートークの様子
下：郡山市立美術館所蔵品の展示風景